

## 令和 4 (2022) 年度 外部評価委員による評価結果

本学独自の外部評価は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等を鑑み、委嘱している 5 人の委員の方に「令和 3 (2021) 年度愛知文教大学自己点検評価書」等を送付し、機関別認証評価日本高等教育評価機構が示している「基準 1 から基準 6 及び基準 A 並びに特記事項」について意見を頂き、集約した概要等は以下の通りです。

### 良かったと思われる点

基準 1 リメディアル教育をベースに、それを更に越えていくことを「逆転力教育」という端的なキャッチフレーズの下で推進していることは、学生にとってわかりやすく、大学で学ぶ目的の発見や、やる気の喚起につながると思われ、評価できる。

基準 1 郊外に立地する単科大学は学生募集の面で不利な材料も多いが、その中で各種の努力により高い定員充足率を実現している点、また、小規模故に目が行き届き小回りがきく点を活かして、恒常的に改善を図っている点が評価できる。

基準 2 専任スタッフがそれほど多くない中で、数多くの学生サポートをきめ細かに行っている点が評価できる。

基準 2 基準 1 で記載されている学長の「逆転力教育」がアドミッションポリシーに反映されている点は評価できる。

基準 2-3 キャリア支援 キャリア支援に関して専任職員による支援体制がとられておりきめ細かな取り組みが行なわれている点は評価できる

基準 2 新入生に対する「学長昼食会」など、学長と学生が直接関わることのできる環境を作り、学生からの声を聴取する点は良いと思います。(コロナ禍で中止との事、再会に期待します)

基準 3 一年次に全員が語学研修に参加し、費用を負担している点は良いと思います。

基準 3 外国語教育を教育課程の特徴とする点から、学生全員が参加できる海外での語学研修制度は評価できる。

基準4 教育目的を達成するために設けている教育研究組織としての各種委員会に、教員と職員が組織的な連携関係にあることは評価できる。特に、全教職員が参加する木曜ミーティングを通して理事会の運営方針を聞くことができ、大学運営だけでなく、教育研究実施について意見交換できる体制は優れている(基準1)。

基準6 三つの方針を起点とした教育の質保証を踏まえた改善に関して継続して行われている点は評価できる。

基準A 地域連携 地域連携により、地域に値ざして様々な取組みを継続的に行っている点は評価できる

#### 今後期待したいと思われる点

基準2 令和4年度大学設置基準改正によると、図書館の閲覧室、書庫、座席等に関する定めを廃止することになる。GIGA スクール環境から学んだ学生が入学してくることを考え、図書の電子化やIT化を踏まえた規程の見直しを期待する。

基準2 E ラウンジやCC ラウンジなど、留学生の多い在学生の特徴を活かした学習環境整備は評価できる。E ラウンジやCC ラウンジだけでなく、正規の語学授業にもTAとして参加し、授業を一部担当できることを期待する。大学設置基準の改正により、TAなどの授業への参画が促進されるようになるので、教育効果をさらに向上させるため教育補助者が授業の一部を分担することができるなどの教育環境整備を期待する。

基準2-3 キャリア支援 エビデンス集表2-6から無業者・未定者が25<sup>\*1</sup>/66人中と多い。就職率向上に向け、目標数値を定めるなど評価を行い、就職率向上に向けて、今後期待したい。

※1 この人数には、留学生の帰国者などカウントできない人数が含まれています。

基準3 教員志望者の不足が問題になっている中で、小牧市の小中学校との連携等を通じて、教職の魅力を体験的に知った上で教員を志望する人材を数多く育成することを期待したい。

基準3 外国語教育に重点をおく教育課程を修了した学生が海外の大学院に進学しやすくなるよう、卒業要件の見直しを期待する。卒業要件について、愛知文教大学学則第37条「本学の教育課程

を履修し卒業するには、4年在学し、124単位以上を修得しなければならない」としている。文部科学省からは、大学卒業後海外の大学院に進学することができるよう、卒業要件の見直しを求めている。「概ね4年」が修学年限であり、厳密な4年間在学をもとめるものでないことを明確化することを期待する。

基準4 想定外のことはいつおきるかわかりません。事務局内の役職者の他部署との兼務の早急な解消に期待します。

基準5 危機管理体制のマニュアルが国内を想定しているとの事ですが、一年次に行われる語学研修での有事の際の対応はどうなっているのかと思いました。また、今後、海外渡航が多くなると予測される中で、早急な整備に期待します。

基準6 内部質保証のためのPDCAサイクルについて全学的に充実することを今後も期待したい。

基準A 地域との連携を更に推進することで、教育や研究内容の特色化が図られ、それが貴学の魅力向上につながることを期待したい。

基準A 地域連携事業として、小牧市から委託実施する小牧市文化財啓発事業調査研究事業について、地域の活性化に寄与する人材を育てるという事業目的の観点からも、キャリア支援として学生の関与が望まれる。

#### 外部評価委員（敬称略）

氏名	委嘱期間	所属先
武市 礼子	令和4年4月1日～令和6年3月31日	小牧市教育委員会文化財課課長
山口 哲	令和4年4月1日～令和6年3月31日	愛知県立春日井東高等学校校長
平手 悠佳里	令和4年4月1日～令和6年3月31日	小牧市北里児童館副館長
早川 渡	令和4年4月1日～令和6年3月31日	愛知文教大学教授
朴 賢晶	令和4年4月1日～令和6年3月31日	愛知文教女子短期大学教授

以上